

CSV 通信

令和 7 年 9 月 1 日発行
東京都立中野特別支援学校+
しいの木分教室
校長 和田 慎也
文責: 今本 和宏 堀切 美和

★都立中高一貫教育校の地区情報交換会を実施しました★

令和 7 年 6 月 26 日に中高一貫教育校の第 1 回地区情報交換会を開催しました。都立版エリアネットワークでは、11 校ある中高一貫教育校(附属小学校を含む)は CSV が直接連携することとなり、年に 3 回の情報交換会を開催しています。

前半は会場校による実践を報告していただきました。中高一貫校において中学校(前期課程)では CSV が巡回教員となって特別支援教室を、高等学校(後期課程)ではその学校の先生と連携事業者が行う通級による指導を行っていますが、それぞれの担当の視点からお話いただきました。こちらの学校ではフローチャートを活用し、特別支援教室利用希望の生徒対応を組織的に行っていました。SC や特別支援教育心理士、CSV を活用しながら生徒支援を進めていました。

高等学校で通級による指導をご担当された先生の報告は、大変参考になるものでした。当初は初めての担当ということで不安なお気持ちもあったようですが、連携事業者が丁寧に授業計画等の相談に乗ってくださり、順調にチームティーチングを進めることができたそうです。生徒と毎週継続的に関われることで提出物や課題の管理などが改善されたことに加えて、そのように生徒が変化していく様子を目の当たりにしたことで担任としてクラス運営にも役立ったとのことでした。SST(ソーシャルスキルトレーニング)の手法など、ご自身の教育的スキルも向上したというお話もあり、多くの先生方に聞いていただきたい実践でした。

後半は小中前期と、高校後期に分かれた分科会を行いました。小中グループでは「新入生の年度当初の様子」「コミュニケーションや課題のある児童生徒への対応」。高校グループでは「中学・前期との連携した校内体制」「大学入試に向けた合理的配慮」などが話題となりました。

中高一貫教育校には特別支援教室巡回指導や、行動観察等で CSV が日常的に連携しています。引き続き連携を深めていくとともに、他の都立高校等にも良い実践を広めていければと思います。



第 1 回会場校の CSV 教室

★都立版エリアネットワーク各地区より★

東部地区【第1回地区拠点校情報交換会(7/15)でのミニ研修会の報告】

「外国にルーツのある生徒の指導について ～ダイバーシティ推進校の実践から～」

報告者:浅草高等学校 副校長 杉浦 美穂 先生

昨年度、地区拠点校のコーディネーターであった杉浦先生から、東部の高校で話題になる「外国にルーツのある生徒の指導」についての先進的な取り組みをお話していただきました。今年度より在京外国人枠の受け入れ高校として拡大された4校が「ダイバーシティ推進校」になりました。浅草高校では、在京枠以外で入学した外国ルーツの生徒も多いそうです。「やさしい日本語」の考え方は知的障害特別支援学校の内容と重なり、絵カルタなども効果的であるそうです。指導プリントも特別支援学校の教材と似ているので、日本語指導の面でも地区拠点校と連携が取れるのではないかと考えているとのことでした。また多数ある「やさしい日本語」等の参考サイトもご紹介いただきました。

中部地区【通級による指導立ち上げに向けての連携の紹介】

昨年度、「次年度通級による指導の立ち上げを目指している」と地区拠点校に相談があり、今年度も継続して連携した取り組みをご紹介します。

相談を受け、まず他地区の地区拠点校と連携し同じようなタイプの学校ですでに通級による指導を実施している学校の様子の見学を設定しました。見学後に質問や相談をする時間を設け、開始にあたっての校内体制の整え方や、実際に提出する書類など、不安な点を細かく情報提供していただきました。

昨年度末に、スケジュールの相談を受け、今年度5月の初回訪問では、1月開始に向けての具体的な進め方の相談となりました。周知の仕方や校内での検討の流れなどとともに、説明のための資料へのアドバイスも実施しています。保護者向けの説明会なども企画されているようです。

高等学校の「生徒に必要な支援をしていくというあたかな視点」が、形になっていく様子に地区拠点校がしっかりと伴走することができ、充実した連携となっています。

西部地区【年度初めの地区情報交換会を開催して】

今年度はすべての地区拠点校が年度初めに地区情報交換会を行いました。各拠点校で日程や内容の工夫がされ、高等学校コーディネーターの出席も多くいただきました。

新たな担当者での顔合わせ、地区拠点校からの情報提供、通級申請に向けての流れの説明などがあり、その場で気軽に質問ができる、対面の会の良さを生かした会になりました。

高等学校からは…「新一年生の状況は」「中学校からの引継ぎはどのようにやった」「合理的配慮の希望が出ているが、校内でどのように検討していけばよいか」「通級による指導を9月から始めたいが、何を準備したらよいか」などなど。情報交換が活発に行われました。

この流れて後日、高等学校訪問を行っています。生徒観察の依頼や校内委員会参加も増え、複数回の訪問も増えてきています。早いスタートで連携もさらに深まってきています。